

美学 262

ポストモダン以後、共通感覚は可能か ——リオタルとランシエールのカント共通感覚論解釈——	浅野 雄大	1
『ミル・プラトー』におけるリトルネロの分析と展開	内藤 慧	13
歴史に触れる ——フィリップ・バルディヌッチの批評記述にみる〈素描の直接性〉とヴァザーリ——	古川 萌	25
美と生活の結びつき ——高山樗牛と柳宗悦における「絶対」の追求——	足立恵理子	37
幕末・明治期におけるアンプロタイプへの愛着を支えた「もの」 ——木箱・ガラス・無彩色——	安藤千穂子	49
形式主義音楽美学と時間論の架橋 ——ジゼル・フルレの音楽美学におけるヘーゲル美学の影響——	船木 理悠	61
忠実性の美学に向けて ——音楽の録音における高忠実性と低忠実性の多様性と共通性——	中村 将武	71
嗅覚再考 ——どのように嗅ぎ、表現するか——	岩崎 陽子	83
書評 尼ヶ崎 彬 著『利休の黒——美の思想史』花鳥社、2022年	佐々木健一	95
例会・研究発表会発表要旨		101
学会消息・編集後記		110
欧文要旨		116